

<p>小林 立栄 議員 (一問一答)</p>	<p>1 自主防災組織の活性化策について 自助、共助、公助による防災と減災の地域づくりに取り組む中で、地域住民がお互いに助け合い守り合う共助の重要性が高まっている。自主防災組織の活動を充実させ、地域防災力を向上させるための取組について伺う。 (1) 遠野市の自主防災組織の活動状況について (2) 防災士制度の利活用について (3) 防災環境整備に要する経費への助成について</p> <p>2 障害者差別解消法の施行に向けた取組について 差別を解消し、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目的として、差別的取扱いの禁止、合理的配慮の不提供の禁止を掲げる障害者差別解消法が制定され、平成 28 年 4 月より施行される。施行に向けた取組について伺う。 (1) 対応要領の作成など施行に向けた取組について (2) 障がい者権利条例の制定について</p> <p>3 青少年の成長を応援する取組について 青少年の未来は遠野の未来であるとする。青少年たちの成長を応援し、また地域の魅力創生につながる取組について伺う。 (1) 青少年による議会の開催について (2) 青少年が企画する活動経費への助成について</p>	<p>市 長</p> <p>市 長</p> <p>市 長 教育長</p>
<p>瀧本 孝一 議員 (一問一答)</p>	<p>1 地区センターの役割と体制の見直し等について 「第 2 次遠野市進化まちづくり検証委員会」の最終答申を受け、提言されているこれからの地区センターの役割や体制の見直し、方向性等を伺う。 (1) これまで果たしてきた役割現状での問題点は。 (2) 職員数を含めた体制の見直しの中身は。 (3) 今後の地区センターの役割と方向性は。 (4) 新設される（と思われる）地区センターの時期や場所、使用する建物は。 (5) 総合支所機能の低下はないか。連携のあり方は。</p> <p>2 学校教育現場における「いじめ」の把握と対策について 昨年 5 月の滝沢市、本年 7 月の矢巾町におけるいじめによると思われる中学生自殺事件は、全国的に大きな衝撃をもたらした。本市における学校教育現場の「いじめ」の実態や把握と対策等を伺う。 (1) これらの事案に対する教育長の認識や思いは。 (2) 本市における不登校児（生徒）やいじめの実態は。 (3) 生徒同士、生徒と教師、教師間相互のいじめとふざけやからかい等の区別や認識の違いの有無は。 (4) 教師間の情報の共有と連携・相談のあり方は。 (5) 児童生徒への指導、いじめの対策は。</p>	<p>市 長</p> <p>教育長</p>
<p>細川 幸男 議員 (一括質問)</p>	<p>1 新庁舎建設計画についての経緯と進展状況について 新庁舎建設に対し、一般市民は建設には賛同しても、将来的に市民人口が減少すると想定している。 遠野市の市財政を心配する市民は子どもたちの将来に負担が重荷になるなどと心配する声が聞こえてくるが、計画を進める際に市民理解を得られる自信の程を尋ねる。</p> <p>2 遠野市の農業特産物について 遠野市の特産物と言えば、宮守ワサビや暮坪カブと言われるが、現状と今後の取組、さらに特産物に対する市長の基本理念を尋ねる。</p> <p>3 幼児教育について 旧遠野市では、保育協会に移管しているが、旧宮守村の現状について尋ねる。</p>	<p>市 長</p>

<p>菊池 美也 議員 (一問一答)</p>	<p>1 ことばの教室・きこえの教室のこれからのあり様について (1) 巡回指導教室を含む『ことばの教室』の存続を 児童数の減少は、ここ数年間避けることが出来ない。話すことが苦手な児童のために、巡回指導教室を含めた現行の仕組みを今後も維持・存続するのか。 (2) 『幼児ことばの教室』の土日開設について 親御さんの、通級と仕事の両立を支援し、負担と軽減するために、土日に教室を開設する考えはないか。 (3) 啓発について ことばの悩みを抱えている児童、そして家族がいるが、まだまだ知られていない。このことについて、より広い周知が必要と思われるがどうか。 (4) 『きこえの教室』開設について きこえに対しての教育が必要な子どもの存在を把握した際、どのような手立てを講じるのか。きこえの教室を開設するという考えはあるのか。</p>	<p>教育長</p>
<p>菊池巳喜男 議員 (一括質問)</p>	<p>1 水資源の保全をどのように認識しているか 林野庁の調べによると、平成 26 年までに全国で外国資本と見られる森林買収事例が 92 件、1,153 ヘクタールが確認されているが、世界的に水資源の必要性が高まっている中で、自治体の間には自己防衛のための条例を制定する動きが広がっている。遠野市はどのように認識しているのか。</p> <p>2 岩手県の死亡家畜処理方法についてどう考えるか 東北農政局調べでは、岩手県の肉用牛と乳牛の飼養頭数は 136,200 頭で、東北管内では第 2 位は宮城県 104,900 頭であり、31,300 頭上回り、第 1 位となっている。一方で、遠野市内の家畜飼養頭数は、農林業センサスの統計（平成 22 年）6,700 頭余りであり、畜産所得に占める頭数の裏づけが示されている。 しかし、死亡牛の処理が他県に任せっぱなしであり、県としては自ら何も対策をとっていない現状でもありますが、この状況をどのように考えているのか。</p> <p>3 平成 26 年度遠野市社会福祉協議会決算をどのように見るのか 遠野市社会福祉協議会の平成 26 年度決算の概要が 7 月号の「とおの社協だより」に掲載され、26,364 千円の赤字を計上した旨が発表されているが、遠野市としては、福祉事業での社会福祉協議会の果たす役割の大きさの中で、どのような対策を講じていこうとしているのか。</p> <p>4 全国学力テストから見えるものと今後の取組むべき課題は 文部科学省は去る 8 月 25 日、全国小学 6 年と中学 3 年を対象に全国学力テストを実施し、結果を公表したが、岩手県の課題も多いが遠野市の取組は。</p>	<p>市長 市長 市長 教育長</p>
<p>菊池 充 議員 (一問一答)</p>	<p>1 和牛振興対策について (1) 遠野牛確立強化対策事業の成果と課題について (2) 公共牧場再編整備事業で整備された施設の利用実態と今後の計画について (3) 後継者、新規就農者の育成確保対策について</p>	<p>市長</p>